

くっちゃんじゃが祭り

倶知安の夏の一大イベント「くっちゃんじゃが祭り」は今年で55回目を迎えます。今月号では、8月5日～6日の開催を前に、私たちのふるさとの伝統であるじゃが祭りの歴史を振り返るとともに、祭りづくりに関わる人にその思いを聞きました。

じゃが祭りの始まり

じゃが祭りのルーツ 山麓ジャガイモ祭りの開催

昭和23年8月15日～17日までの3日間、山麓ジャガイモ祭りが開催されました。この祭りは、当時松実菱三町長や小川原脩氏がこの地域の経済作物であり主食であるじゃがいもと、それを耕作する農家に感謝する目的で、山麓町村に呼びかけ、じゃがいもをテーマとした祭りを開催したとされていますが、その後続くことはありませんでした。

NHKの協力のもと 第1回産業観光まつり開催

じゃが祭りの前身は、昭和38年8月9日～12日までの4日間に開催された第1回産業観光まつりです。この祭りは、

これまでの神社仏閣などの儀式的な祭りではなく、「新しい町づくりを皆さんと共に」をテーマとし、NHK小樽放送局の全面的なバックアップのもと盛大に開催されたといえます。その後はNHKの力を借りることなく町民が一体となって作り上げる現在の祭りの形となりました。

産業観光まつりは、7回目を迎える昭和44年、倶知安を大いに宣伝するローカル色を打ち出す目的からその名称を「羊蹄火まつり」に変更しましたが、3年後には元の名称に戻りました。そして、現在の「くっちゃんじゃが祭り」という名称が誕生したのは昭和51年で、今年で55回目を迎えます。時代の流れとともに祭りの内容が変わるのは当然のことですが、その時代やニーズに合わせて工夫を凝らし、試行錯誤を繰り返しながら現在に至っています。

うちわデザインコンクール

子どもたちと祭りをつくる

祭り会場で多くの人が手にしているうちわは、町内の小学生が描いたものです。うちわデザインコンクールは、町内の小学生全員が参加できる祭りの取り組みで、第35回(平成9年)に始まり、今年で21回目となりました。



過去20回のうちわ



今年のうちわデザイン

また、徳丸さんは、これまで20年以上にわたり、じゃが祭りポスターデザインを手掛けています。今年のポスターは、薄紫を基調とした色づかいで、じゃがいもの花をイメージしており、中央には、徳丸さんのご自宅から見える羊蹄山が描かれています。



今年のポスター

2003～
くっちゃんじゃが祭り
平成15年(第41回)
～現在



▲昨年、参加者が千人を超えたじゃが千人踊り

第55回となる今年も、皆さんおなじみのくっちゃんじゃが祭りは、様々な趣向を凝らしたイベントを盛り込んでおり、倶知安の夏を代表する一大イベントとして、毎年町内外から多くの方が参加し、にぎわいを見せています。

2002
ポテトフェスティバル
平成14年(第40回)



▲平成24年まで行われていたじゃが人間ばんば

第40回の開催にあたり、実行委員会の中から、もっと若い人たちが積極的に参加できる名称にと、若者に親しみやすいのではないかと理由から、名称を「ポテトフェスティバル」に変更し開催されました。

1976～
くっちゃんじゃが祭り
昭和51年(第14回)
～平成13年(第39回)

地域振興、観光振興を目的に始まった産業観光まつりでしたが、じゃがいもの町を内外にPRする取り組みが少なかったことから、名称の変更について、実行委員会と商工会議所や関係団体が議論し、昭和51年(第14回)から、現在の名称に変更されました。

じゃがの冠は、祭りの名称だけでなく、じゃがねりこみやじゃが踊りパレードといった、各イベントにもつけられるようになりました。



▲昭和50年代に開催された尻別川いかだ下り



▲当時のじゃが百人太鼓の様子

1972～
産業観光まつり
昭和47年(第10回)
～昭和50年(第13回)

昭和47年開催時には駅前通りの一部を、翌年昭和48年には全線を通行止めとし、また、これまで3日間としていた開催日程についても、この昭和47、48年開催時は5日間とするなど、祭りはその規模を徐々に拡大していきました。

なお、昭和50年には現在と同じ2日間の開催日程となりました。



▲じゃがいもジャンジャン取り

1969～
羊蹄火まつり
昭和44年(第7回)
～昭和46年(第9回)



▲祭りの様子を伝える記事(昭和44年9月町広報)

産業観光まつりは、回を重ねるうち、倶知安の地域色が見えないなどの反省点から、名称を羊蹄火まつりへと変更し、火まつりパレード、ファイアーストームなど新しい趣向の行事が展開されました。

1963～
産業観光まつり
昭和38年(第1回)
～昭和43年(第6回)

現在のじゃが祭りへと繋がる、産業観光まつりは昭和38年に第1回が開催されました。



▲第1回の会場の様子



▲婦人千人踊りの様子

1948
山麓ジャガイモ祭り
昭和23年(第1回)

じゃが祭りのルーツとも言われている倶知安の夏祭りです。この祭りは馬鈴薯産地としての感謝から出発することを主旨に、郷土色豊かな恒久的祭典をうたい、若い世代を中心とした行事として、参加した子どもが親となり初めて完成する郷土の祭りを目指し開催されました。

地元の誇り じゃがいも

鹿児島県山川町（現在の指宿市）は、さつまいも発祥の地とされています。俱知安町と山川町は、特産品が共通してイモであったことからその交流が始まりました。両町が姉妹都市提携を結んだ平成8年の祭り（第33回）では、山川町長をはじめ来町した23名の親善団がかつおの山車を引き、じゃがねぶたに参加するなどし、会場は大いに盛り上がりました。



山川町親善団によるカツオねぶた（平成8年）同町はカツオの漁獲量が多いことで知られている



じゃがとさつまいものジャンジャン取り（平成5年）

また、現在も続く大人気イベント「じゃがいもジャンジャン取り」は、第29回の祭り（平成2年）以降数年間、俱知安産のじゃがいもだけでなく、山川町産のさつまいもを混ぜた「じゃがとさつまいものジャンジャン取り」を行っています。

じゃがねぶた

山車と人が 夜のまちを彩る

祭りの1日目を締めくくる目玉イベント「じゃがねぶた」。じゃが祭りが始まった昭和51年には、現在の山車でなく、みこしを担いで町を練り歩く「じゃがねりこみ」として行われていました。

じゃがねぶたは、チームごとに山車を引き、思い思いのパフォーマンスを行いながら駅前通りなどを練り歩くもので、毎年子どもから大人まで300名以上の参加者により行われています。



俱知安農業高校生徒会の皆さん

昨年の優勝は俱知安農業高校チーム。毎年、若さと元気に満ち溢れた迫力あるパフォーマンスを見せており、第51回から4回連続で優勝を勝ち取っています。

同校生徒会の皆さんは、本番に向けて仲間と過ごす準備期間が楽しいと話しています。また、今年のじゃがねぶたでは「5連覇を目指す」と意気込んでおり、生徒会長の石山志寿さん（3年）は、「高校生活最後のじゃが祭りで、最高の思い出を作りたい」と話していました。

全ての人 楽しめる祭りに



第55回くっちゃんじゃが祭り
運営本部長
本間 英夫 さん
株式会社本間松蔵商店 代表取締役

いよいよ来月に開催が迫った第55回くっちゃんじゃが祭り。今年の運営本部長を務める本間英夫さんにお話を聞きました。

本間さんは過去にも運営本部長を務められるなど、祭りの運営に深く関わっていらっしゃいますが、ご自身が見てきたこれまでのじゃが祭りについて教えてください。

「じゃが祭りは、歴史ある伝統的な俱知安の祭りです。55年間の歴史の中で、我々の先輩方が試行錯誤を繰り返しながらさまざまなイベントを企画してきました。俱知安といえはなんととっても豪雪。冬は、雪に悩まされる方も多しと思えますが、そんな雪を夏の暑い日に楽しむ方法として、会場に雪を降らせてそこ

にレーザーで光を当て、今でいうプロジェクトションマップのようなイベントをしてきたこともありました。夏に雪を楽しむという発想は、現在も残る巨大雪ダルマや雪の滑り台のルーツになっているのではないかと感じています。

「運営本部会では、年に一度のこの祭りをこれからの俱知安町を担っていくであろう子どもたちに楽しんでもらうため、関係団体などと協議しながら企画しています。また、子どもたちだけではなくその親御さんやおじいちゃんおばあちゃんなど、より幅広い世代の方に楽しんでもらえるような祭りを作りたいと思っています。



昭和61年8月町広報より

「最後に、運営本部長として町民の皆さんへメッセージをお願いします。」

「今年は第55回という記念すべき年です。これまで以上に盛り上がる2日間になるよう準備を進めており、第55回にちなんだイベントも企画していますので、楽しみにしていてください。会場でお待ちしています。」

（取材日6月14日）

第55回 くっちゃんじゃが祭り

平成29年8月5日（土）～6日（日）

俱知安町駅前通り

同実行委員会事務局（町まちづくり新幹線課）
☎ 56 - 8012

昭和23年、山麓ジャガイモ祭りの「じゃがいもさんありがとう」と「ふるさとを想う心」は現在のじゃが祭りに繋がっています。

時が流れても変わることのない俱知安の伝統『じゃがねぶた』や『じゃが千人踊り』、『赤坂奴』など今年もイベントが盛りだくさん。ぜひご家族や友人と会場に足を運び、そして共に祭りをつくっていきましょう。



昭和38年8月町広報より

じゃが千人踊りは、昭和38年第1回産業観光まつりで婦人舞踊団が揃いの浴衣を身にまとい、「俱知安小唄」に合わせて駅前通りをパレードしていたものが始まりだといわれています。現在の千人踊りに使用されている「じゃが音頭」は、昭和53年、公募により誕生しました。

また、昨年は治道から観覧者が続々と踊りの列に加わり、近年にないほどの盛り上がりを見せました。

じゃが千人踊り

町民全員が ひとつになる